

フィリピンでの短期語学研修が行われました 2026.7

本校では、夏休みに4つの短期語学研修のプログラムを設定し、希望者が参加します。行き先はイギリス・イートン校、アメリカ・ハーバード大学とカリフォルニアのラ・サール大学、そしてフィリピンのセント・ラ・サール大学です。前者3つは高校1年の希望者が参加しますが、フィリピンについては高1の他に中3も参加できるようにしています。

以下は、そのフィリピンでの語学研修に参加した中3の生徒2名の手記です。

A 君

(現地で)7月27日に入学テストを行った。ライティング、リーディング、リスニング、スピーキングの4項目に分かれていて、問題数が多く、難しい問題ばかりであまり解けなかった。入学テストの後、全員でSMモールという、とてつもなく広いショッピングモールに行き、必要な物資の調達をした。夕食はラ・サール大学の寮で食べた。日本とはやはり食べ物の味は異なっていたが、食べられないほどのものではなかった。宿泊先である Avenue Suites Hotel にはお湯が出るウォーターサーバーがあり、インスタント食品を食べることもできた。

7月28日からは午前のマンツーマン授業と午後のグルーブレッスンが始まった。マンツーマン授業では自分が伝えようとしたことは大体伝わり、自分に英語の力があることが実感でき嬉しかった。しかし先生の話はネイティブであるがゆえにわからないこともあり、もっと鍛える必要があると感じた。グルーブレッスンでは、ユニークな先生と日本について話したり、フィリピンのことについて話してもらい、面白くて楽しかった。

グルーブレッスン前の昼食は、ラ・サール寮で食べることがほとんどだが、ラ・サール大学内のイベントみたいなものがあり、フィリピン特有の食べ物を食べることができた。とてもおいしかった。4時頃の自由時間では、フィリピンで一番人気のスポーツであるバスケットボールをフィリピンの人とやって楽しんだ。言葉が違って、皆と意思を合わせることができた。

7月31日はグルーブレッスンの時間 The Ruins という遺跡に皆と一緒にいき、写真を撮って楽しかった。

8月1日には児童福祉施設に行き、そこの子供たちと踊ったり、ゲームをしたりして楽しんだ。そこにもバスケットコートがあった。その後、かなり大きめのウォーターパークに行き、ジェットコースターに乗ったり、とてつもなく大きいピザを食べて皆と遊んだ。

このフィリピン留学を通して、自分の英語力が十分にあることを知り、フィリピンの人々がとてもフレンドリーであることがわかった。機会があればもう一度行ってみたい。

B 君

私にとって、海外渡航は3回目になる。初めて訪れる国、そして家族旅行でない、同じ学校の仲間と過ごす12日間の語学研修に、私は不安と期待を抱えながら皆と飛び立った。

マニラ空港から国内線で1時間のネグロス島のバゴロシティに降りて、最初に驚いたことは、交通ルールについてだ。まず、横断歩道の信号機がなく、線が消えかかっている中、車やバイクの間をうまくすり抜けて歩く様子は、日本とは大きく異なり、ヒヤッとする場面が多かった。また、舗装が行き届いていないため道はでこぼこしていて、日本の道路交通の素晴らしさを感じることができた。

語学研修はセント・ラ・サール大学の先生方が担当してくださり、午前はマンツーマンレッスン、午後はグルーブレッスンであった。フィリピンの人々は男女問わず明るい人が多くて、廊下で通りかかったときには"Hey,Bro!"と笑顔で挨拶してくれるし、授業でも私の話をたくさん聞いてくれて、終始楽しい授業であった。

週末、児童福祉施設を訪問し、現地の少年たちと交流することがあった。施設の子供たちと接することが今までなかったので、どのように接すればよいかわからない不安だったが、ダンスを踊ったり、一緒に歌を歌ったりして、コミュニケーションをとることができ、私自身も楽しく過ごすことができた。また別の日にはバナナ農園で現地の農業の一端を学んだ。重機を使わず水牛に犁を引かせて畑を耕し、化学肥料ではなく堆肥を使う

など、環境に配慮したエコな栽培は、一昔前の日本と似ているように思えた。水牛に乗っている仲間もいて大いに盛り上がった。そしてこの日の昼食はこの農場で放し飼いにされている鶏であった。まさに命を頂く、「いただきます」という言葉が身に染みる、一生忘れられない経験となった。

宿泊はホテルだったので、食事と通学以外は自分で行わなければならなかった。寮生は慣れているのだろうが、自宅生かつ一人っ子という環境の私は、相部屋であることも初めて、身の回りのことを自分でやるということも初めてで、本当に戸惑った。相部屋だった寮生には本当に迷惑をかけたと思う。着替えはクリーニングに出すこともできたが、私はホテルの洗面台で洗濯した。荷物整理は数日後にはだいぶできるようになったが、日頃親にしてもらってばかりいたことに感謝した。

私はこの12日間で、語学を学べば、言語は違えどお互いに分かり合い認め合うこと、自分の行動に責任が伴うこと、仲間の重要性、そして、私達の住む日本のありがたさを感じた。今回の貴重な経験を今後の人生に活かすべく、全てのことに全力で取り組んでいきたいと思う。



左 個人レッスン 右 現地の大学生とチームを組んで大学内の探検



上左右 児童福祉施設で子どもたちと交流 下左右 スplashパークで遊ぶ





左右とも グループレッスンの様子



左 The Ruins にて 右 バナナ農園で水牛を使った耕作を体験



左
水牛に乗って
中
鶏をその場で
つぶして調理
右
農園での
食事風景



左 修了証書の授与 右 授与式で記念撮影